

## 「日系」も一つの個性 ～さぽうと21卒業生として～

KOSAKA RAFAEL YOSHINORIさん

私はブラジルのサンパウロ州で生まれた日系ブラジル人の三世です。私が幼い頃に、他の多くの日系定住者と同様に両親が出稼ぎとして来日し、私も同行しました。以来、両親の都合で日本とブラジルの間を度々往来し、小学校の6年までに6回程転校を繰り返しました。

両親の世代は経済状況により学業に取り組む機会に恵まれなかった方が多かったので、専門性の有無や学歴に関わらず雇ってくれる日本の工場で働くことは絶好の機会でした。しかし、過酷な労働条件に対して賃金が安い場合がほとんどで、派遣社員としての雇用が多いため職が安定せず、景気の気まぐれで急なりストラを宣告されたり、退職金が支払われないなどの不利な面がたくさんあります。日本で教育を受けるには高い費用が必要なため、そういう家庭に生まれ育った人の多くは、進学をするかどうかという重大な岐路に立たされます。私も例外ではなく、進学する余裕があるとは言えない環境でしたが、母親が強く進学を後押ししてくれ、大学院まで進学できた非常に恵まれたケースです。しかし、周囲のブラジル人の友人を見ると、両親が子どもの進学に関心が低かったり、進学したくても、家計を手伝うために早くから工場に就職してしまうことが多いです。また、言語や文化の壁に邪魔され、学校等で日本の社会に馴染めないこ

とも、日系定住者の工場勤務率が高くなる一因だと思います。

しかしそんな中で、数年前と比べて若者たちの意識が変わりつつあるように感じます。日本社会のグローバル化が進み、また、さぽうと21のような支援が外国出身者に行き届くようになったからだと思います。これは非常にいい傾向ですが、ここで強調しておきたいことは、工場勤務をすることが間違いであると言いたいのではなく、選択肢の幅を広げることが大切だと思います。将来何かを成し遂げる方法は無数にあり、大学進学はその一つの方法にすぎません。

最後に、就職活動を経て私が感じたことは、個性的な（自分を持っている）人は魅力的だということです。私たちのようなバックグラウンドも一つの個性であり、社会のさまざまなところで活躍できます。自分が生まれた環境を大切にして、最大限に活かしてほしい



最後に、就職活動を経て私が感じたことは、個性的な（自分を持っている）人は魅力的だということです。私たちのようなバックグラウンドも一つの個性であり、社会のさまざまなところで活躍できます。自分が生まれた環境を大切にして、最大限に活かしてほしい

ブラジル出身の2015年度支援生。  
筑波大学大学院 数理物質科学研究科を卒業。  
2016年、国際石油開発帝石株式会社に入社。

## 生活支援プログラム 今年は募集時期が早まります！

難民など、外国にルーツのある学生たちが、学校に通うための費用を応援する「生活支援プログラム」。

今年は、受験の時期と重ならないように募集の時期を早めました！

### 1 生活支援プログラム〔高校・専門学校・大学〕

書類受付期間：11月 1日（火）～ 12月 22日（木）※必着

### 2 坪井一郎・仁子学生支援プログラム〔大学3～4年・大学院〕

書類受付期間：9月 1日（木）～ 10月 24日（月）※必着

詳しくはこちら



<http://support21.or.jp/news/2016/06/17141/>

## 第50回さぼうと21夏期研修会 初めての農業体験プログラム！

さぼうと21恒例の夏期研修会。今年は外国人住民が多い栃木県大田原市の農家に2泊ホームステイし、農業体験を行います。当会の生活支援や学習支援の対象者の他、宇都宮大学多文化公共圏センターのご協力を得て、栃木県在住の外国人学生なども参加予定です。

ここ数年、東京都内の会場が続いていたこと、また、昨年の「働き方」発見セミナーで「農業」や「林業」に関心がある学生もいたことから、今年は自然の中で交流を楽しめる体験型プログラムを企画し、農業体験の受け入れに積極的な大田原市で開催することにいたしました。

### 農業体験プログラムで目指していること

- 日本各地に住む外国出身の学生たちが交流する機会をつくる
- 外国人住民が多い地域の生活を学び、地元住民（農家）の方々と知り合う
- さぼうと21支援生など、外国にルーツをもち、熱心に勉強に励んで、日本社会の一員として暮らしている人々のことを地元の方々に理解してもらう

**日 程：**8月22日（月）～8月24日（水） 2泊3日

**開催地：**栃木県大田原市周辺の農家に民泊

**協 力：**宇都宮大学 国際学部附属 多文化公共圏センター  
株式会社大田原ツーリズム・農家の皆さま  
AAR Japan【認定NPO法人難民を助ける会】

**後 援：**公益財団法人栃木県国際交流協会、株式会社 下野新聞社

### 北関東に住むさぼうと21の支援生が増えています！

首都圏の背後に位置し、製造業などの企業が集まる北関東。研修会で訪れる栃木県の定住外国人は2015年12月末現在、約34400人。その半数以上が永住／定住者です。国籍別ではアジア（72.6％）と、日系が多い南米（23.5％）が大部分（96.1％）を占め、中国、ブラジル、フィリピン、ペルー、ベトナムが上位5カ国です。（法務省統計）

近年、北関東の日系の方々による「生活支援プログラム」への応募が少しずつ増えています。その背景として、滞在が長期化し、日本が家族の生活拠点となり、子どもの教育が重視されるように

なったことが挙げられます。来日当初は、義務教育修了後すぐに働き始める子どもも少なくありませんでした。しかし、厳しい生活環境の中で、向学心をもち、しっかり勉強する人々が増えています。

一方で、言葉の問題、度重なる転職や引っ越しによる生活の不安定さ、進学・就職に関する情報不足、親子間の文化的ギャップなど、定住化に伴う課題も深刻です。若い世代の進路選択を支援し、外国人住民の社会参加の機会を広げるために、今後も「生活支援プログラム」を充実させていきたいと考えております。

### 平成28（2016）年度 日本郵便年賀寄附金配分事業



# 研修会 ～36年を振り返る～

今年の夏で研修会は50回目を迎えます。さぼうと21の前身「インドシナ難民を助ける会」(1979年設立)のときから様々な形で研修会を行い、インドシナ難民同士の交流、また行く先々での地域の方との交流やインドシナ難民について正しく理解していただくことを目的として実施してきました。

研修会が行われた当初、主な参加者の国籍はベトナム、ラオス、カンボジアのインドシナ3国でした。「国籍ごとに部屋分けをしないと、一触即発、よく喧嘩が起こってしまったのよ」という話を、当時の役員から

よく聞きます。自分たちの言語で、同じ国の人同士でしか会話をしなかった支援生たち。「お国自慢・料理大会」等を開催する中でお互いの国に関心を寄せ、話し合うようになり、いつしか共通言語は日本語になっていました。今日の研修会では、10ヶ国を超える学生たちが国籍を超えて友情を育む貴重な機会となっています。

37年目になる研修会のヒストリー、写真と当時の思い出と共に、少し振り返ってみたいと思います。

## 1980年代～



1982年に難民救援奨学金制度(現・生活支援プログラム)が発足。この年の夏、皆で富士登山。冬にはスキー合宿を行った。

●1985年 夏：青年海外協力隊駒ヶ根訓練所で合宿。様々な方のご協力を得て、在日インドシナ難民相互の交流、日本人との交流をはかった。参加者は約120名。

●1986年 夏：難民オリンピック運動会。ベトナム、ラオス、カンボジアにルーツを持つ参加者約250名が国籍ごとのチームに分かれ、1位を争った。この時から、サッカー大会も活発に行われるようになり、インドシナ3国と日本人チームの4チーム対抗戦が毎年のように行われていた。



## 2000年代～



●2007年 夏：進路セミナー&パネルディスカッション。高等教育を目指す支援生が多数となり、進路相談が増えてきたことが背景にあった。自己実現を果たすために進路やキャリアについて考える研修会は、今日に至るまで継続している。この年は、支援生の家族や学習支援室の受講者も合流して、約100名で山梨県へ。家族で遠出をする機会にめぐまれなかった学生たちも皆、ぶどう狩りやバーベキューを楽しんだ。【三菱銀行国際財団助成】

●2012年 夏：宮城県の被災地でのボランティア。東日本大震災によって被災した子どもたちや高齢者のために、仮設図書館の本棚を組み立てたり、全国から寄せられた本を寄贈。「家の跡を見て悲しかった。ありえない光景だった。でも、その中で力を合わせて頑張っている姿を見て、どんなことがあっても前向きに生きようというメッセージを受け取った。」(支援生の声)【日本郵便 年賀寄附金配分事業】



これからも、研修会はテーマ・形を変えながら行われていきます。

## 小中高生に向き合って

さぼうと21の学習支援室は、ここ数年、小中高生の数がどんどん増えています。10年ほど前はたった3名だった未成年者が、一昨年には20名、今年は40名。いまや、支援室学習者の半数近くを占めています。難民の第二世代が学齢期に達するようになってきたためです。

子ども達の場合、大人たちとは違って、「なぜ自分の家族は日本にいるのか」「自分の故郷はどこなのか」「自分はいったい何人なのか」など、様々な疑問を心の中に抱いて日々過ごしています。家族の向き合い方が問われることにもなっています。

学習支援室でも、そんな小中高生のために何ができるだろうと考えながら、今年になって次のような取り組みを始めました。

### ■合気道教室始動！

4月9日(土)より毎週土曜日、さぼうと21で学習中の小中学生3名が、明治学院大学の浅川達人教授(合気道部顧問)、合気道部OBの土岐賢治さんから合気道のご指導を受けています。午後1時、明治学院大学の学生ボランティアの方々にお迎えに来ていただき、3人は徒歩で大学道場まで移動。その後、道場の一角で合気道の稽古に励んでいます。学習の合間の心身の訓練の時間です。挨拶や礼儀、積み重ねの大切さ、本当の強さを学んでもらえればと期待しています。

明治学院大学「内なる国際化」に対応する人材育成プロジェクトとの出会いに感謝しながら、子ども達を道場に送り出しています。



### ■先輩の話を聞く会—看護師になるまで、そして今—

5月14日(土)、来日から7年、この春看護師として働き始めたS.U.さんにいらしていただき、看護師希望の中高生3名のためにお話をさせていただきました。S.U.さんは、育った国での学歴は認められず、夜間中学で勉強を始めました。都立高校に進んだ時に、高卒認定試験の勉強のためにさぼうと21に通うようになりました。苦労に苦労を重ねて初志貫徹した先輩の話は、夢をかなえる大きな喜び、目標を達成していくことの厳しさを、あふれんばかりの優しさと共に伝えてくれるものでした。

当日の若者たちのやりとりはホームページ「スタッフブログ」でも公開しています。ぜひお読みになってください。



## 皆さまからのご協力 お待ちしています

- さぼうと21マンスリーサポーター (月500円～)  
口座振替の他、クレジットカードでのお引き落としも可能となりました！



<http://support21.or.jp/news/2016/05/16735/>

- 「かたつむり」再建プロジェクト (岩手県大船渡市)  
津波で流失した、障がい者の方々の福祉作業所の再建に向けて、ご寄付を募っています！



<http://fund.katatsumuri.jp/>



# Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.60 2016.7

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

### 社会福祉法人さぼうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治、宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

### 私たちの活動を応援してくださる方を求めています！

- 会 員：法人会費 50,000円  
個人会費 5,000円

- ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

### ◆会費・寄付のご送金口座◆

|        |                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------|
| ゆうちょ銀行 | 振替口座：00180-7-25470<br>加入者名：社会福祉法人 さぼうと21<br>※通信欄に会費または寄付とご明記ください  |
| 三井住友銀行 | 目黒支店(普) 851872<br>名義：社会福祉法人 さぼうと21 じゅういち                          |
| みずほ銀行  | 目黒支店(普) 1180279<br>名義：社会福祉法人 さぼうと21 じゅういち<br>※銀行振込み後は事務局までご一報ください |

### お問い合わせ

## 社会福祉法人 さぼうと21

|                                            |                                    |
|--------------------------------------------|------------------------------------|
| 住所：<br>〒141-0021<br>東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階 |                                    |
| TEL：<br>03-5449-1331                       | FAX：<br>03-5449-1332               |
| E-mail：<br>info@support21.or.jp            | URL：<br>http://www.support21.or.jp |

